

目次

1 章.....	2
1-1. 球面上の位置を表すには？	2
1-2. 時刻はどのように決められているか？	2
1-3. なぜ、世界地図には様々な図法があるのか？	2
2-1. 国家が成り立つための条件とは？	2
2-2. 日本の隣国との境界を見てみよう	3
3-1. 日本は世界とどのように結びついているか？	3
3-2. 観光客はどのようなところに集まるか？	3
3-3. 交通と通信の発達で世界はどう変わったか？	4
3-4. 物資はどのように移動するか？	4
4-1. どの場合にはどのような地図が便利か？	5
4-2. 地理情報とは何だろう	5
2 章.....	5
1-1. 地球の起伏はどのようにして生まれたか？	5
1-2. 山地と平野の地形を生かした暮らしとは？	6

1 章

1-1. 球面上の位置を表すには？

地球上のすべての地点は、緯度と経度を使って表すことができる。(1) は赤道から北極点と南極点までをそれぞれ 90 度に分けたもの。一方、北極点と南極点を結ぶ線が (2) で、地図の縦線に相当する。(3) はロンドンを通る線を 0 度{(4)}とし、東西それぞれを 180 度に分け、東側を (5)、西側を (6) としてあらわす。

地球は回転軸{(7)}が傾いており、そのまま太陽の周りを約 1 年かけて (8) している。北半球では (9) に近づくほど太陽が真上から差し込んで日が長くなり、(10) に近づくほど低く差し込んで日が短くなる。また、北半球に近い地域では (9) が近づくとも太陽が沈まない (11) が、(10) が近づくとも一日中太陽が昇らない (12) がみられるようになる。

1-2. 時刻はどのように決められているか？

地球上で朝昼晩が訪れるのは地球が (1) しているからである。太陽が真南に来ることを (2) といい、昼のその時刻を (3) という。地球上のある二つの場所の時刻の差を (4) という。

地球上では地域ごとに時差が生まれるため、国や地域ごとに (5) を定めている。日本では東経 135 度を (6) としてきた。世界全体としては、ロンドン郊外の旧グリニッジ天文台での時刻を (7) にしてきた。現在は、より精度の高い原子時計に基づく (8) (UTC) を使っている。日付の境界として、経度 189 度に沿って (9) を設定している。

1-3. なぜ、世界地図には様々な図法があるのか？

(1) は、緯線と経線が直角に交わっている地図で、出発地と目的地を結んだ直線と経線との角度を維持すれば目的地に到達できる。

(2) は、図の中心から任意の地点までの距離と方位が正しく、中心点から任意の地点までの最短経路が直線となる。中心から離れるにしたがって形がゆがみ、(3) は外周上になる。(3) …地球上のある点の反対側の点。

(4) は面積が正しくあらわされるため、分布図に使われる。

2-1. 国家が成り立つための条件とは？

国と国の境のことを (1) という。

(2) は、領域、国民、主権の三要素を持つ。(3) とは、他国に支配されない独立性を保ち、国家の在り方を決める権利をいう。

歴史の古い国ではおもに河川や山岳など自然的障壁が国境になっている (4)。一方、北アメリカやアフリカでは緯度経度による直線的な国境が多い (5)。

国家の領域には、領土、(6)、(7) がある。(6) とは、領土に接する一定海域のことで、

基準線から 12 海里(約 22km)までを最大範囲としている。(7)は、領土と(6)の上空のことをいう。

領海の外側の領海基線から 24 海里(約 44km)までの水域を(8)といい、出入国管理などのために沿岸国の規制が認められている。さらに、領海基線から 200 海里までの海域(領海を除く)を(9)といい、海底資源や水産資源などについても沿岸国の権利が認められている。これに対し、(9)よりも外側にあり、どの国にも属さない海域を(10)という。

世界では、ある土地がどこに属するか、その帰属をめぐって(11)が起きている。

2-2. 日本の隣国との境界を見てみよう

日本は、内水を含む(1)を 43 万km²、(2)は 405 万km²にもなる。

(2)の外側に(3)(海岸から緩やかに傾斜しながら続く海底)の延長が認められている。

択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島はまとめて(4)と呼ばれ、そこでは約 1 万 7000 人が暮らしていたが、ソ連に占拠され、(5)が生まれている。(4)は日本固有の領土であり、1855 年の(6)で国境が定められている。また、1956 年の(7)で日本とソ連が国交を回復したが、宣言の中で、両国間による平和条約締結後、色丹島と歯舞群島を日本に引き渡すことが明記されている。

島根県の隠岐諸島沖の日本海に浮かぶ(8)は日本固有の領土であるが、韓国の沿岸警備隊が占拠している。また、沖縄県石垣市に属する(9)もまた日本固有の領土であり、中国が領有権を主張している。

3-1. 日本は世界とどのように結びついているか？

日本からの(1)(発展途上国に対し、先進工業国の政府や政府機関が行う資金援助や技術援助)による援助が増えてきている。

国同士では互いに(2)を認め合い、大使を交換して国と国とで外交関係を持つことを(3)という。なかでもアメリカは最も重要な(4)として協力関係を結んでいる。

一国の国民経済内部における地理的な構成部分を(5)という。

ヨーロッパ 27 か国が加盟する(6)は、多くの人口と大きな経済規模を誇る。北アメリカの 3 か国が結んでいる(7)も同様に経済規模が大きい。10 か国が加盟する(8)は経済規模は大きくないが、人口規模では(6)を超えている。そのほかにも、(9)、(10)などの(5)がみられる。

(11)は第二次世界大戦の反省から生まれた国際機関で、あらゆる分野で地球規模の協調を図っている。その専門機関として、教育や文化面から平和活動を進める(12)がある。

3-2. 観光客はどのようなところに集まるか？

日本への(1)は 2012 年からの 4 年間に約 3 倍に増えた。出身国や地域を見ると東アジアが多く、そのうち、韓国と中国がそれぞれ 4 分の 1 を占めている。中国人観光客は、取得

水準の向上や、日本政府が 2010 年に（２）を中間所得層にまで拡大したことにより増加した。また、2013 年からタイやマレーシアからの旅行者に対して（３）を認めた。

体験型や滞在型などのツアーといった、日本文化の魅力を積極的に外国に発信する（４）が進められている。

世界の自然地域や文化的な遺跡を国際的に保護する目的で登録されたものを（５）という。

ヨーロッパには（６）（長期休暇）をとる習慣が根付いている。この期間に、都市住民が農山村での滞在を楽しむ（７）が定着している。

3-3. 交通と通信の発達で世界はどう変わったか？

交通手段の発達によって、（１）はどんどん短くなっている。

ヨーロッパや日本の大都市には地下鉄や路面電車などの（２）が発達しており、都市と都市の間は（３）で結ばれている。一方、アメリカのような広大な国では、（４）が発達している。航空路は個別に空港間を結ぶのではなく、いくつかの（５）に旅客や荷物を集中させることで分散させている。また、近年、東南アジアを中心に、従来のサービスを簡素化することで運賃を安くする（６）が急速にシェアを伸ばしている。

（７）が急速に発達したきっかけは、1990 年にアメリカから始まった軍用の（８）の商用利用の解禁だった。大容量の通信に欠かせない（９）が大陸間に敷設され、大量の情報を高速かつ安定的に伝えられるようになった。さらに、（10）の整備も進んでいて、屋外で手軽にインターネットにアクセスできるようになっている。

ネットでの検索や動画視聴など、入手できる情報量が増えるとともに、（11）で個人が世界中に発信し交流するなど、ライフスタイルも大きく変わっている。一方で、インターネットを用い、必要な情報を得られない層が環境などの影響でできてしまう（12）が問題となっている。

3-4. 物資はどのように移動するか？

国境を越えて商品やサービスを売買することを（１）という。資源力が乏しい日本では、工業原料やエネルギー資源などの大部分を輸入し、加工し製品化して輸出する（２）を行ってきた。

海に囲まれた日本では、重量ベースにすると輸出入量の 100%近くを（３）が占めている。世界の統一規格で作られたコンテナを積み込む（４）や、（５）など、貨物の種類によってさまざまな専用船がある。

第二次世界大戦以前は、安い外国製品から国内産業を守るため、輸入品に高い関税をかける（６）が行われていた。しかし、ブロック経済を作ったことから対立が深まり、対戦へとつながった。戦後は、そうした保護主義への反省から（７）が推進されて、貿易は大きく拡大した。現在では、貿易をする二国間の輸出入の偏りが大きくなり、（８）が起きるケースがみられる。また、世界経済が成長する中で、工業製品の輸出によって発展した先進国と、

原料や食料品などの（９）の輸出に頼る発展途上国との間に（１０）が生まれている。

1995 年に（１１）が設立され、国や地域の枠を超えた自由貿易の実現が進められている。二国間や地域で個別に取り決めを行う（１２）や、自由貿易だけでなく幅広い分野で連携する（１３）が結ばれて、域内貿易の自由化が進んでいる。

4-1.どの場合にはどのような地図が便利か？

（１）は、観光の「見どころ」が描かれているが、（２）のような運転に必要な道路情報やランドマークになる施設は乗っていない。（３）は駅名や路線の接続には詳しいが、駅間の距離や方角は必ずしも正確ではない。（４）は、従来の紙の地図ではできなかった、範囲の拡大縮小が自由自在で、スマートフォンに取り込んで持ち運べる。

地名や道路など、基本的な情報を網羅し、正確な位置を示した地図を（５）という。（５）には、国土地理院の（６）や、日本地図、世界地図がある。一方、統計地図のようにテーマに応じて必要な情報を抽出して表した地図を（７）と呼ぶ。

（８）…実寸を縮小して図面表示したときの、縮小の比率。

4-2.地理情報とは何だろう

駅や道路などの地名情報や、人口や交通量などの統計情報を、緯度と経度などの位置情報に結び付けたものを（１）という。こうした（１）を位置情報をもとに地図上に重ね合わせ、分析、管理するシステムを（２）と呼ぶ。

（２）に必要な位置情報を得るために、人工衛星を利用した（３）が運用されている。上空からの信号を受けて地球上の現在地を測定するシステムで、アメリカが開発した（４）もその一つである。日本は順天衛星「（５）」を打ち上げ、高層ビルや山に囲まれた地域でも信号が妨害されることなく、正確な位置を測定できるようになった。

2 章

1-1.地球の起伏はどのようにして生まれたか？

地球上の大陸や大洋、海溝などは地球内部のエネルギーによって土地が隆起したり沈降したり、移動したりして作られた。このような地球内部からの力を（１）という。地球の表面は、厚さ数十から 200km ほどの巨大な岩盤でできた十数枚の（２）でおおわれている。（２）はその下のマントルの動きによって移動しているとされ、こうした考え方を（３）という。プレートが移動すると、プレートの境界ではプレート同士の衝突や沈み込みが起これ、地震や噴火などの（４）が活発になる。このような内的営力が強く働く一帯を（５）とよぶ。

境界には（６）、（７）、（８）の四つのタイプがある。（６）は、大陸プレート同士が衝突することで、ヒマラヤ山脈のような大きな山脈が生まれた。（７）は、海洋プレートが大陸

プレートの下に沈み込んで（９）を作っている。（８）は、二つのプレートが離れるように動き、その割れ目からマグマが上昇し、火山活動が起こって（１０）ができる。境界から離れた一帯は火山活動などはほとんど起こらず、（１１）と呼ばれている。

内的営力に対し、太陽からのエネルギーと重力に起因する力を（１２）と呼ぶ。

1-2.山地と平野の地形を生かした暮らしとは？

勾配が急な山地では、河川の（１）・（２）作用が盛んで、上流では急流によって山地が削られ、（３）が生まれる。水量の多い（３）では、それをせき止めてダムが建設されている。ダムは、農業・工業や（４）などに使われる。中国やフィリピンなどの産地では、急斜面に階段状の（５）が作られている。

河川が山地から平野に出ると、大きくて重い礫から土砂が堆積していく。これらが堆積し、（６）をつくる。（７）が豊富な扇端では水田や集落が作られる。（６）より下流では傾斜は緩やかになる。河川が増水すると周辺に水があふれて土砂を堆積し、平坦な（８）が作られる。このとき河川の両岸に沿って土砂が堆積され（９）と呼ばれる微高地ができる。また、自然堤防の背後には、細かい砂や泥が残され、水はけの悪い（１０）ができる。

河川が海や湖に流れ出る河口部では、細かい砂や泥が堆積して低平な（１１）ができる。河口部で人口が増加すると、農地を増やすために（１２）が、また、工場用地や移住地などを増やすために（１３）が作られる。オランダでは低湿地を堤防で囲み、排水や干拓を行って陸地を広げてきた。この（１３）は（１４）と呼ばれている。